

5月18日

8:30~

第8回大学間精神科作業療法研究会

The 8th Inter-college Scientific Meeting of Psychiatric Occupational Therapy: ISMPOT

京都大学 名古屋大学 信州大学 神戸大学



日時：2019年5月18日(土)14:00～19(日)13:00

場所：JEC 日本研修センター 神戸元町

担当：神戸大学大学院保健学研究科
神戸大学医学部保健学科作業療法学専攻

第8回 大学間精神科作業療法ミーティング

The 8th Inter-college Scientific Meeting of Psychiatric Occupational Therapy : ISMOPOT

1. 概要

- 日程：2019年5月18日（土）・19日（日）
- 場所：JEC 日本研修センター 神戸元町 大会議室（ミーティング会場）
所在地：神戸市中央区元町通2丁目3番2号 ジェムビル2・3・4階
アクセス <http://www.jec.ne.jp/kobe/access/index.html>
- 目的：連携構築と情報交換の場を通して、精神障害領域作業療法の学術的発展を促進する
- 参加大学：京都大学・信州大学・名古屋大学・神戸大学、北海道大学・札幌医科大学教員

2. タイムスケジュール

5月18日（土）

13:30-14:00 受付

14:00-14:10 開会のあいさつ（神戸大学）

14:10-14:40 参加者自己紹介

14:40-15:20 演題①

白岩圭悟：京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻博士後期課程
「Fmθ 出現時における自律神経活動の変化」

15:20-16:00 演題②

岩井龍之介：信州大学大学院医学系研究科博士前期課程
作業療法を取り入れたリワークプログラムの有効性

（休憩 15分）

16:15-16:55 演題③

宮崎圭佑：京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻修士課程
「感覚介入刺激が視覚性記憶に及ぼす影響について」

17:55-17:35 演題④

櫻井友実：神戸大学大学院保健学研究科博士後期課程
「精神障害者に対する偏見」に関する研究計画（仮題）

17:35-18:00 懇親会説明・情報交換・宿泊場所等の案内など

18:30-21:00 懇親会

感覚介入刺激が視覚性記憶に及ぼす影響について

宮崎圭佑

京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻修士課程

(研究妙録)

この研究では、古くから視覚性記憶検査として用いられてきた Ray の複雑図形検査に、凹凸化した Ray の複雑図版の触覚刺激を介入させて、その図版再生成績と構成方略の変化から、触覚プライミング刺激が視覚性記憶に及ぼす影響について検証する。

先行研究では、ヒトは目視のみで複雑な形態の認識・記憶を苦手とする事が分かっている。これは視覚情報処理負担の大きさが関係している。

それと比べて、触覚モダリティーは手で触れる行為を介して、手掌面の時間的な刺激変化を形態認知に利用できる。「目」と「手」は、感覚器の違いを反映した、異なる情報の入力モダリティーである。

近年、fMRI を中心としたイメージング研究では、脳内の触覚-視覚情報の統合処理が報告されており、手で触れた対象物の触覚プライミング刺激が、視認時において脳内視覚領域の活性を促す事が示唆されている。

しかし、このような異なるモダリティー特性を持つ視覚-触覚情報の脳内統合が、視覚性記憶自体に及ぼす影響を詳しく検証した研究は少ない。

凹凸化した Ray の図版に触れる事で、通常の目視のみの再生成績、描画構成方略からどのような変化を及ぼすのかを、触覚刺激介入群の介入の前・後と目視のみ対照群と比較する。

(研究の応用と発展)

研究の応用的展望については、触覚-視覚情報の脳内統合が視覚性記憶に及ぼす影響を検討することで、触覚を用いた学習が、視覚性認知・記憶に障害を持つ患者に対するリハビリテーションへ繋がる可能性が考えられる。

1つの例として、文字形態と綴りの視覚認知処理が困難な方、また地図認識が困難な方に対して、予め触知可能な凹凸の造形パターンとして触覚学習させることで、視覚性認知と記憶に関わる表象を視覚-触覚の統合を介して補正する。